

7章 今後の課題と取組み

長寿命化にかかる課題

(1) 学校運営に与える影響

概要：授業等の学校運営を行いながらの長期の工事となります。

長寿命化改修工事は、外部改修や内部改修、設備改修を含む全面的な改修工事であり、学校全体で長寿命化改修工事を実施する場合には数年にわたる長期の事業となることもあります。工事実施にあたっては工事内容や学校ごとの諸条件を整理し、夏休み等の長期休業期間を活用するなど、学校運営や地域行事に与える影響を可能な限り低減できるよう努めます。

(2) 設計・施工上の制約

概要：既存建物の状況により、設計や施工上の制約をうける場合があります。

長寿命化改修工事は、柱・耐力壁・床などの既存構造躯体を利用するため、間取りの変更やバリアフリー化等、設計及び施工上のさまざまな面で制約をうける場合がありますが、個々の建物の状況に応じた建築的な工夫を重ねることで施設全体の水準を向上させます。

施設マネジメント上の課題

学校施設にかかる維持・更新コストの不足

概要：建物の長寿命化を進めた場合でもコストの更なる低減策が必要です

今ある建物を長寿命化することで、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減および支出の平準化を図ることができますが、近年の学校施設にかかる予算規模を大きく上回ります。将来の市の財政状況は厳しさを増すことが予測される中、維持・更新にかかるコストの更なる低減・平準化策が求められます。

今後の取組み

(1) 子どもの少子化・偏在化への適応

概要：少子化と地域の偏在化が進む中、子どもたちにとって、よりよい教育環境を提供する観点から、学校施設の規模や配置の適正化を進めます。

久留米市内には、複式学級が発生している過小規模校がある一方で、31学級以上の過大規模校があり、それぞれに児童の教育活動や学校運営において、課題があると考えています。

市教育委員会では、平成30年10月に策定した「久留米市立小学校小規模化対応方針」に基づき、小規模化が進む学校への対応を段階的に行うとともに、過大規模校の解消に向けた方策についても検討を行っていくことにしています。

子どもたちにとって、よりよい教育環境を提供するため、今後の児童数の状況や課題の緊急性等を踏まえながら、一の学年が複数の学級で構成される望ましい学校規模の実現に向け、取組を進めていきます。

(2) 学校施設の集中化と民間活用

概要：学校施設の一部機能について、よりよい教育環境を持続的に提供する観点から、集中化や民間活用について検討します。

学校施設には子どもたちが学習・生活するために不可欠な機能が多く含まれており、その中には利用期間や利用時間帯が一部であるなどの理由から、老朽化等を契機として施設の集中化や民間活用が行われているものがあります。

学校外の公営や民間プールと指導者を活用した事例では、水泳技能の向上、施設整備費や維持管理費のコスト削減、教員の負担軽減等の効果が図られています。

本市の給食調理室については、衛生管理や調理員の勤務環境の面において、室温や床のドライ化等の課題があるものの、施設改修には相当の年数と経費を要する状況です。

今後、よりよい教育環境を持続的に提供する観点から、子どもの教育環境やコスト面など総合的な視点をもって、学校施設の集中化や民間活用について検討します。

(3) 学校施設の多面的な活用

概要：学校教育の場であることを基本としながら、施設の多面的な活用を検討します。

学校は、子どもたちの学校教育の場であることを基本としながら、社会体育や災害時の避難所など、住民生活や安全安心の確保の面でも有効な機能を有しています。

今後、学校教育の場として安全・安心・快適な教育環境の整備を進めつつ、将来の動向や地域の実情を見極めながら、施設の多目的化や複合化等による施設の多面的な活用を検討します。

(4) 維持・更新コストの更なる平準化

概要：事業実施時期の調整により、中長期的な維持・更新にかかるコストの更なる平準化を進めます。

長寿命化改修工事や保全改修工事等について、建物の劣化度等の状況により優先度を検証し、事業実施時期を調整します。また、財政負担を平準化するための基金の創設について研究します。